黄金水盃

拾拾三

拾拾

へ13
3023
5

爲永春水作
十三編上
一惠齋芳幾画
甘泉堂板
黄金水大盡盃
十三編下

爲永春水作
黄金水大盡盃 四編
一惠齋芳幾画
司馬甘泉堂梓
上
下

黄金水大盡
爲永春水作
一惠齋芳幾画
甘泉
十五編上
十五編下
甘泉堂梓

へ13特
3023
5

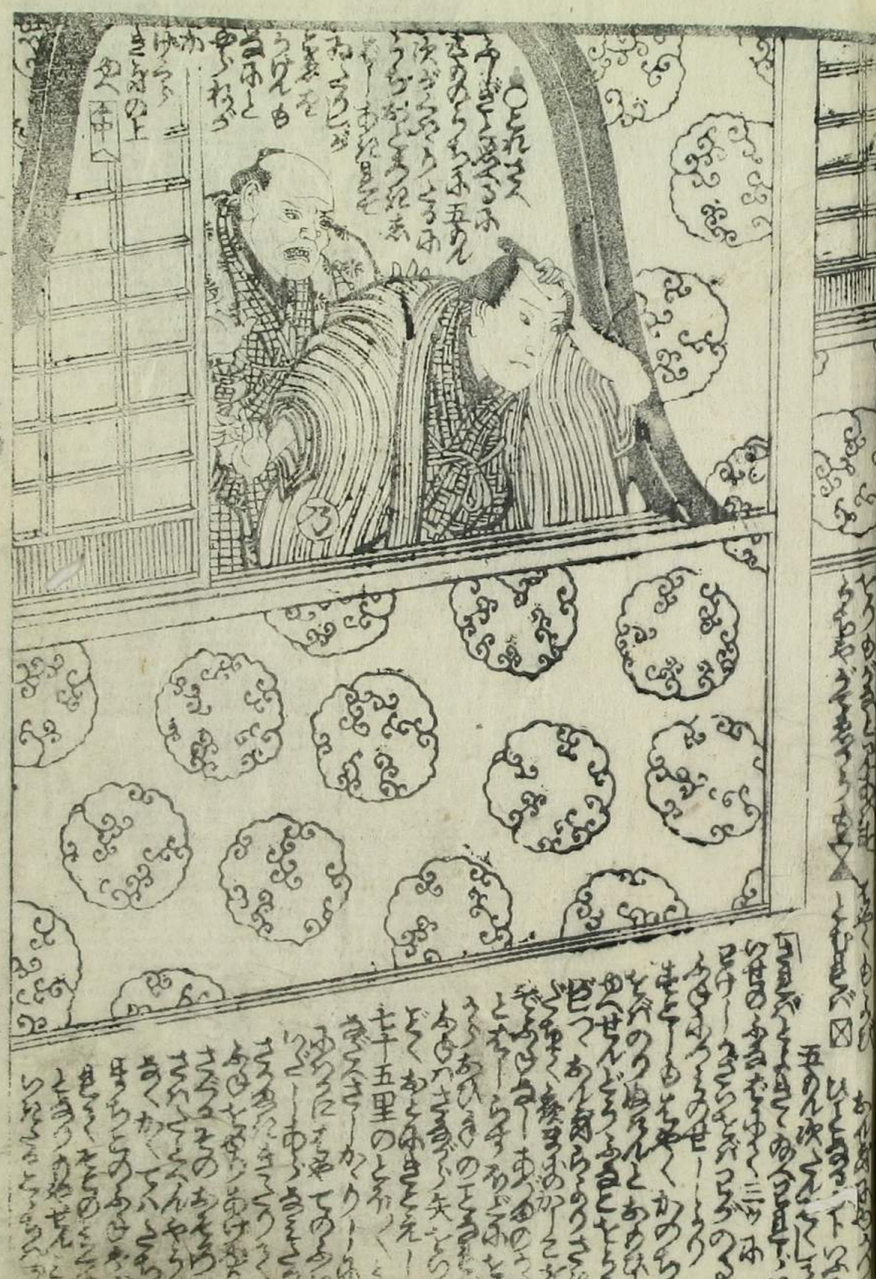
因の種あり果の花あり實の蒔うの種を生ずるのたとへ
一事も善を做さば善果なり一事も惡を做さば
爭う応報を免るゝ此理をあきらかにせん儒家うの聖經
賢傳あり浮屠氏の三世の輪廻を說けど耳遠ふ已に聽
徒く学ぶべき知らぬ婦女子のた免ふその捷徑なる仮字草
紙の這廻ふの別く乃世吉等男女六個の鑑戒者ゞ因果の道理を
細ふの演ぶべ筆のまゝ拙くとも心をとめく讀たまへ
情を列べ欲を禁免家を省るゝ一助ゝ成ん
例の又作者ゞ老婆親切を述て綴りく端文ふ換

文久二稔
壬戌陽春

為永春水誌

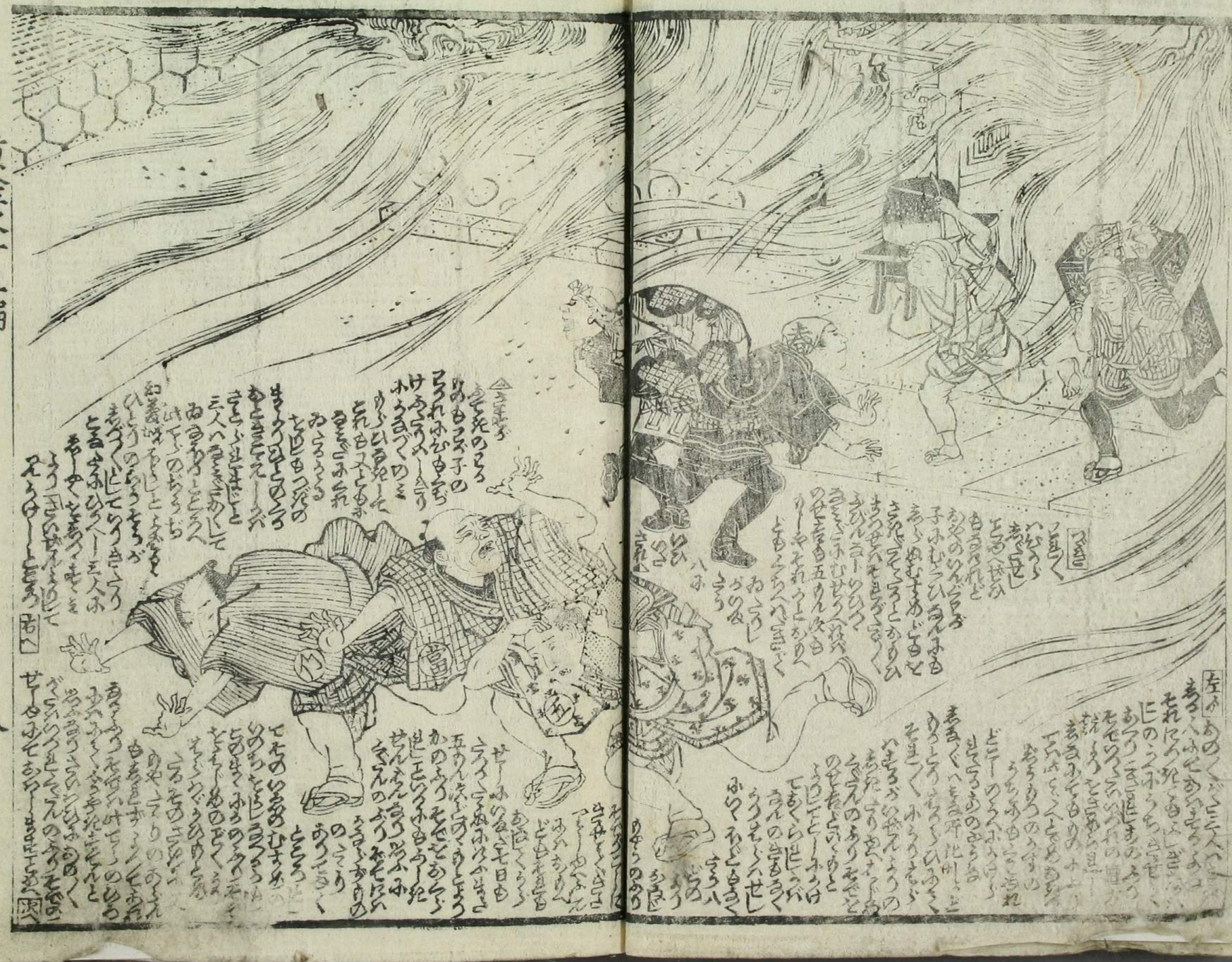
道野後ふ妙々
比丘尼と號も

毒婦阿駄天

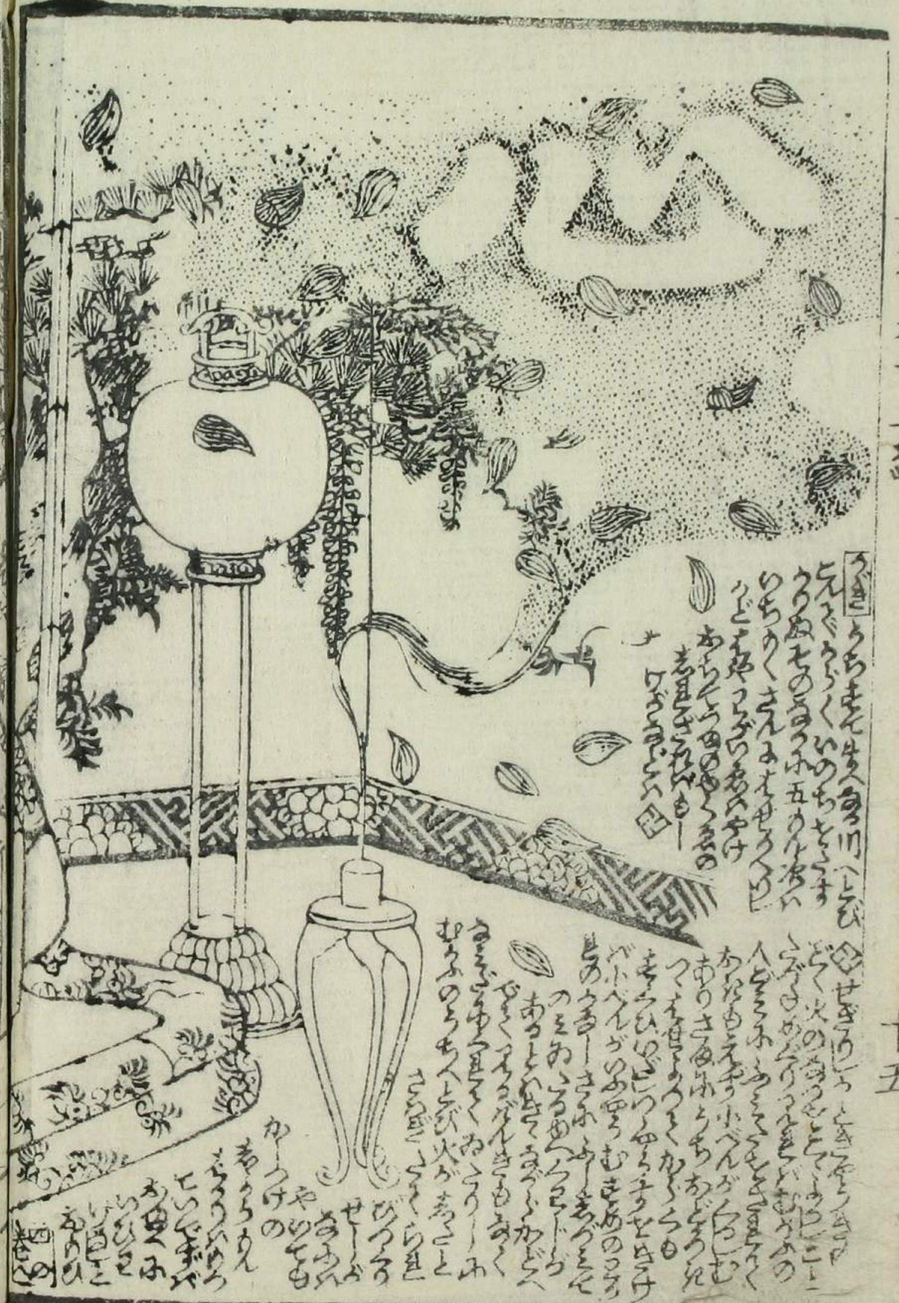


五

五



春水作芳幾画



道野が夢中の狀を圖

朝鮮牛肉丸 大自金乗 中自金乗 小自百銭
下谷茅町 梁嵩氏製
封及 梁嵩氏製

爲永春水作 歌川芳幾画

傭書 交来

恁く淡々し紀菓子ゆい。年暦地利を左右と。ちぐちぐ用あき吏なりとて。打捨べきに。紀さえぬ意味さへある。世界い多く鎌倉あれど。名ばかり。花水橋のちぐみ。船長谷観音の仲廛あど。實地ふ附合ぬ吏ゝ出ぢ。只是僕が筆頭のこの〳〵無事あまいば。看官推しめ。梨子木皂角百日紅の因もたのめ。百日詩り。から〳〵稍。虚談を並べく一部ゆまり。

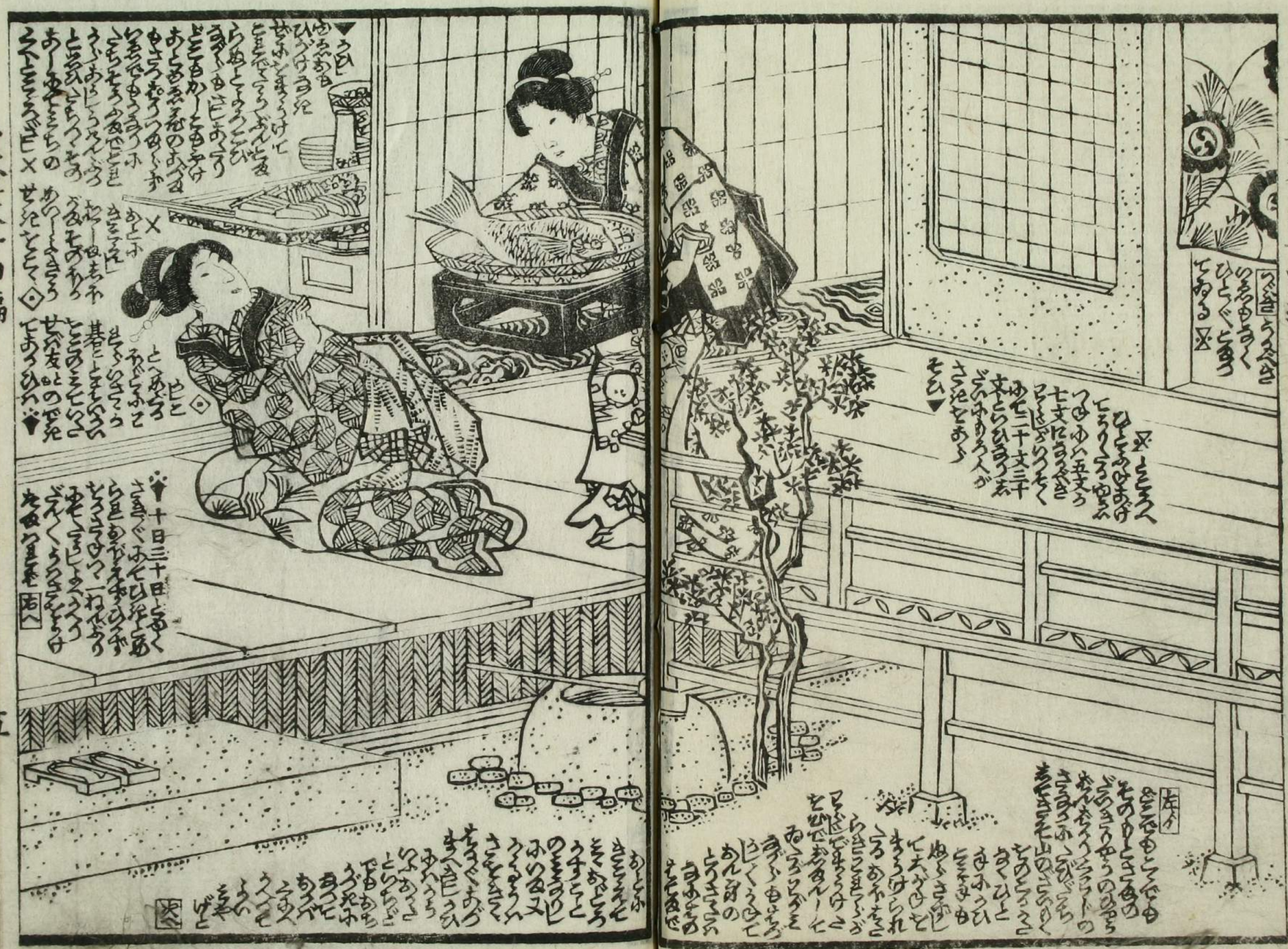
癸亥新春

爲永春水記

浪花の市客
木足屋木之助
宮城野家の側小姓
高舘長五郎
後流浪博労長兵衛
宮城野家の側小姓
柚上久根若

高舘の若黨
佐五平

同家の
侍女一葉



木

這画い木之助が物語の狀を図せし

文

木

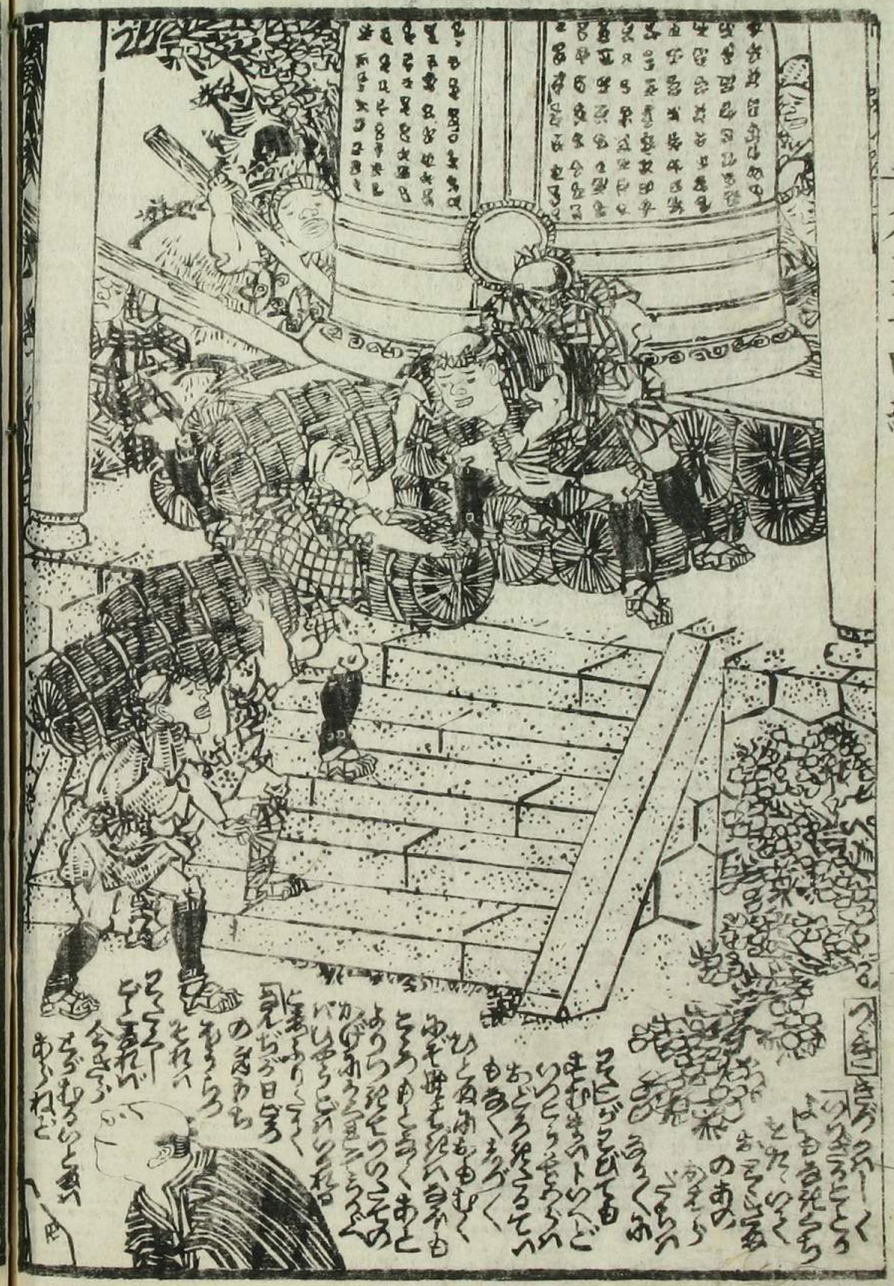
文
怒

芳幾畫
春水作

長
佐

○此画ハ佐五平の
あがりふ合せ
えゑべ〜

芳久画酔



長

爲永春水作　一惠齋芳幾画

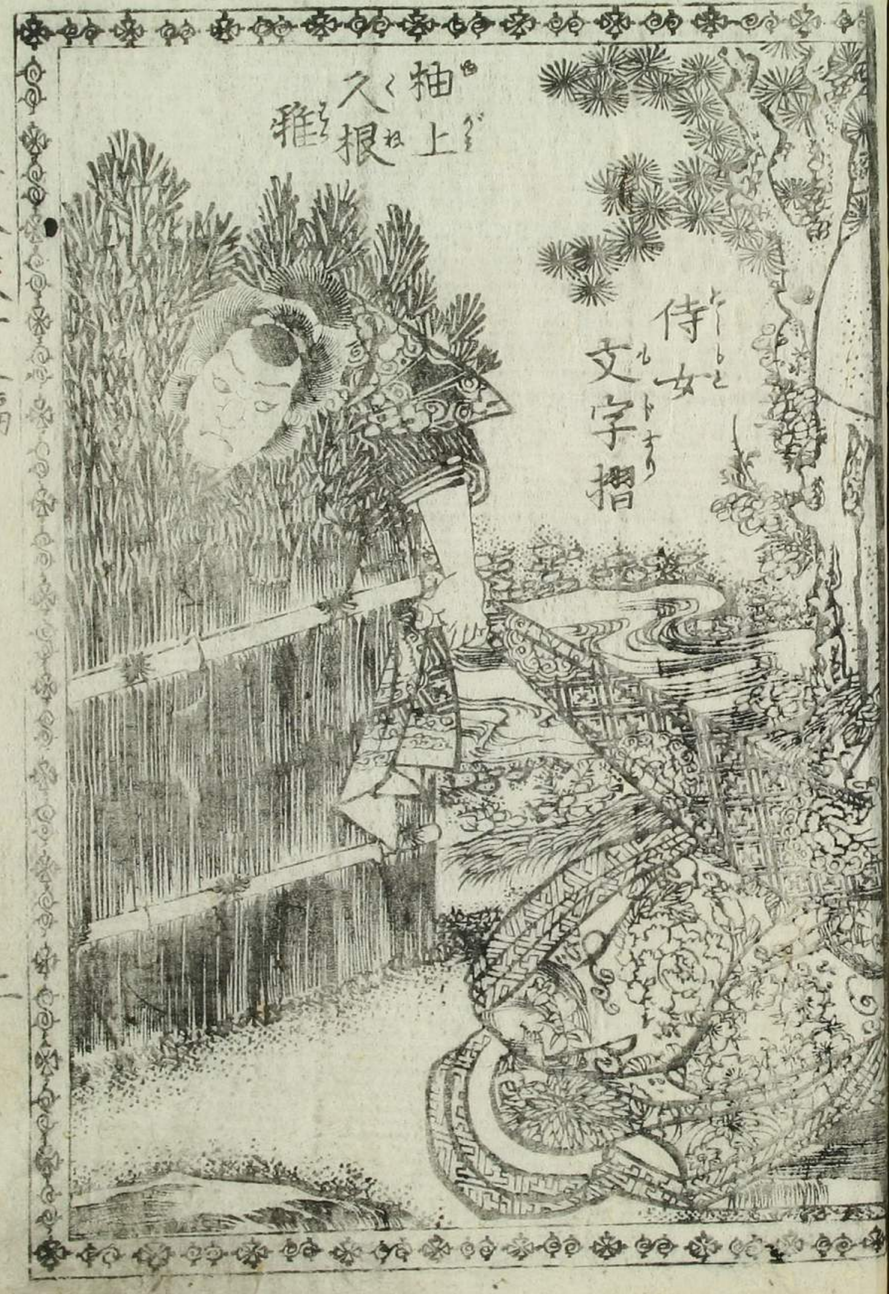
朝鮮牛肉丸　大貳朱　中一朱　小百銅
書肆　浦安
彫刻　深嵜氏製

近年稗史行はるゝに世人の色表紙東西に飛び。新刻は招牌。廊軒にひるがへる。小説世間飽食の婦幼。初編が出るに二編をたづゝ。前輯幾ばくなれば後輯を促せ。實に大都會の繁栄。治世の餘沢。硯一面机に措ば。作者顔して渡らゝ。世を狸毛の筆頭に。博識らしく諸客のあん眼を化せ。功を徑る吏たのもしきれば。折々尾尾を出さんを。一完ある畫工に委ねく。画様に聊か誹をふるを。以て新板の員に加えく。俱に書舗に並るものゝ。例の大盡盃にあん

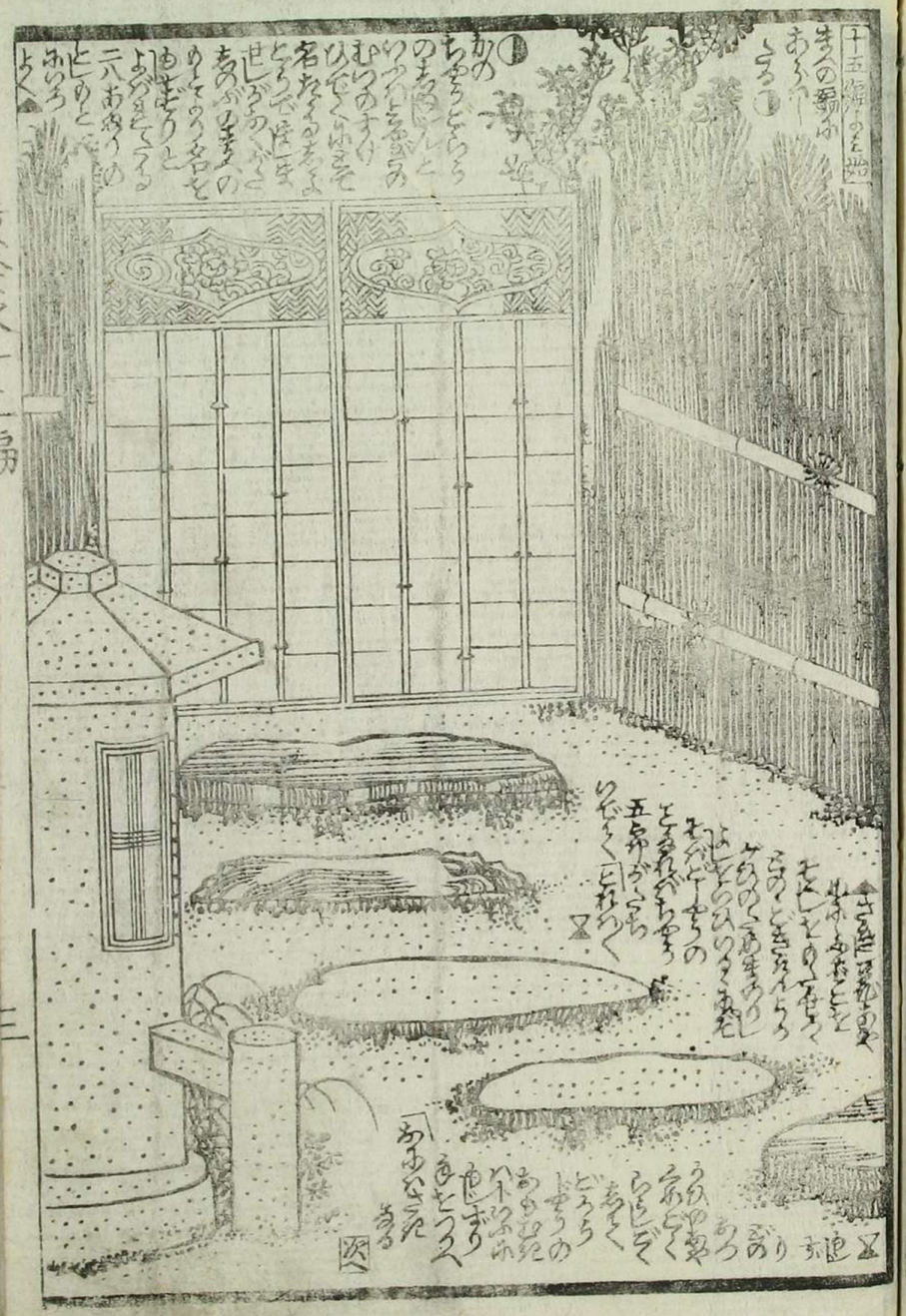
癸丑秋

爲永春水誌

宮城野陸奥の産秀國


侍女文字摺
袖上久根雅

高舘
長五郎



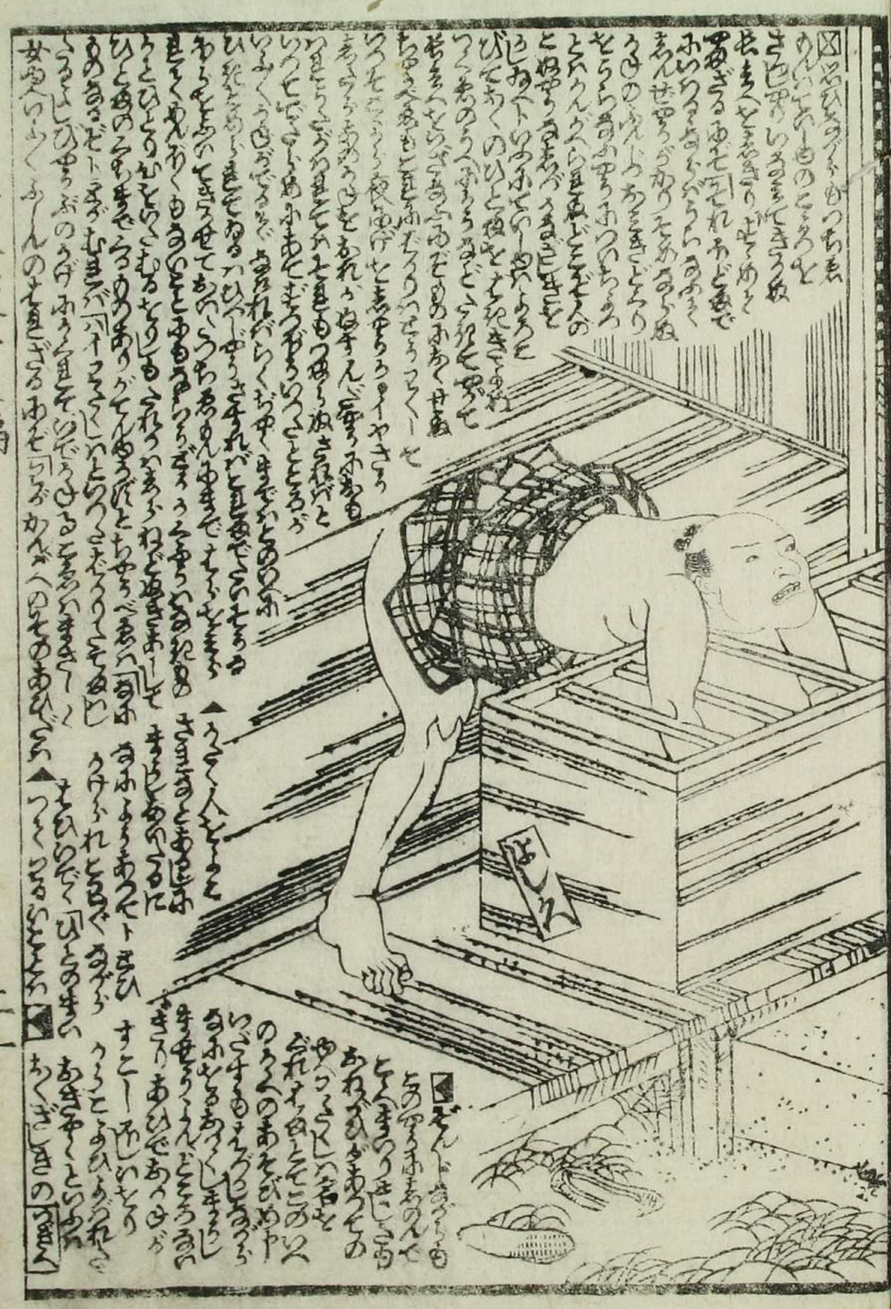
長
久
一世交爾 梅恵画

芳幾画春水作

從臺灣奉賀歌

長

根キン
佐吉



爲永春水作　恵齋芳幾画